

試験の秘けつとテクニック

試験委員会のティム・バース元委員長が試験の準備方法について秘けつと助言を示します。

計算が絡む試験問題

最近、何人かの受験者から、計算問題で満点を取るには、どの程度、計算過程を解答欄に書く必要があるのかという質問を受けました。これに関して、次のような情報が役に立つのではないかと思います。

基本的な命令動詞が「計算せよ (Calculate)」だとすれば、満点を取るためには、適切なレベルの正確さでの計算結果だけが要求されます。したがって、「計算せよ」型の問題では、設問の答えを書くことだけが必要です。しかし、これは非常にリスクの高いやり方です。答えだけ書いたとすれば、満点か零点、どちらかの結果になります。この種の問題では、ごく単純なものは別として、正しい公式や方法が使われていることを示せば途中までの点数がもらえますし、途中までの答えについても同様です。従って、最終的な答えが間違いでも一定の点数は取れます。

命令動詞が「決定せよ (Determine)」であったり、「計算し、その過程もすべて示せ (Calculate, showing all workings)」と指示された場合は、満点を取るためには、たどったプロセスや主な途中段階を書く必要があります。この種の問題では、単に最終的な答えを書いただけでは、たとえそれが正しくても満点にはなりません。

秘けつとテクニック

最初に勧めたいのは、私が2009年の試験の直前に *The Actuary* 誌 (36 ページ) に書いた記事を読むのに、少しばかり時間を費やすことです。この記事は、<http://www.theactuary.com/archive/2009/04/> で閲覧できます。(日本語訳は「[試験合格の秘けつ - 出題者によるガイド](#)」を参照。)

そこでは、試験対策の時に目を向けるかもしれない分野に関する良い指針が示されています。ほとんどの科目では、問うことが可能な問題の数は限られています (もちろん文脈や数値は異なりますが)。ですので、試験対策の時に過去の試験問題に集中的に取り組めば、試験で出される可能性のある問題の良い指針が得られるでしょう。

しかし、どれほど十分に準備しても、多くの受験者は、試験の直前や試験中に試験のテクニックが心配になります。そこで、最終段階の秘けつをお教えします。

出発前 :

受験票をよく読み、正しい受験場に到着するようにします。以前受験した時と同じ部屋やホテル

で試験が行われるとは限りません。

移動や旅程の計画に影響する恐れのある問題が道路や鉄道に生じていないかを、前もってインターネットで確認します。

自分の電卓が許容リストにある電卓かを確かめます。支払う受験料に比べたら、新品の電卓の費用はわずかです。

電卓の使い方に熟練していなくてもあわてる必要はありません。実際に行う計算の90%以上は加減乗除とメモリ1個だけですみます。

予備の黒色ボールペンを持っています。

試験中：

解答のプランを立てます。「ともかく書かないと合格できない」と考える受験者が大変多いようです。

どの科目でも、上位で合格するのに十分である以上の要点を書く時間がたっぷりあります。ですので、書き始める前に考えましょう。

字が下手な場合は、1行おきに書くようにします。大きな字を書く癖のある人も同じようにします。

可能であれば箇条書きにします。出題者が解答の要点をつかめるようにする必要があります。

そして最後の点ですが、問題をよく読み、さらにもう一度読みましょう。

2013年8月13日